

(案)

第 8 回

浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和 7 年 8 月 2 2 日（金）

1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 4 0

場所：台東区民会館 8 階第 5 会議室

(案)

10時30分 開会

1 開 会

2 会長挨拶

3 議事

○事務局 次第の「3. 議事」に入る前にお断りさせていただきます。本会議は設置要綱の第8条の規定に基づきまして、会議および会議録を公開させていただきます。会議資料と議事録は内容を確認しまして、発言者のお名前を伏せさせていただいたうえで、区のホームページで後日公開させていただくことをご了承いただければと思います。それでは、以降の議事につきましては会長、よろしく願います。

(1) 前回委員会以降の各部会等での議論の状況について

(2) ビジョン策定のスケジュールについて

○会長 お手元の議事次第をご覧ください。本日はビジョンそのものをご議論いただきますが、その前の整理として、前回委員会から各部会での議論の状況や今後のスケジュールについて、先に事務局からご説明いただきたいと思います。

<事務局より資料1・2について説明>

○会長 これまでの議論と今後の策定のスケジュール感をご説明いただきました。何かご質問あれば受け付けますがいかがでしょうか。もし部会での議論を経て、ビジョンの中で何か気にある点があれば、これからご説明いただく、現時点でのビジョンの説明をしていただいたうえでご意見を賜ればと思います。

では、議事(3) ビジョンについて、現在の案についてご説明いただきたいと思います。

(3) ビジョンについて

<事務局より資料3について説明>

○会長 資料3がビジョンのまとめになりますが、皆さまにご議論いただいたうえで、まちづくりのコンセプトとして何を大事にし、これからの浅草を考えて

いくつかという議論がありました。それが14ページになります。大きく3つの視点となっておりまして、『快適性を磨き上げる』は共存・安全・スムーズ等がキーワードとなっており、『人・まちを結わえる』は居心地のいい空間をつくりながら、駅とまち・水辺とまちを結んでいくことがキーワードとなっています。『文化を際立たせる』は表舞台を作り、本物を伝え、おもてなしの質を上げることが、今後大事であり、これを具体的にどう展開するのかを各部会でイメージを高めていただいております、何ができるのか・誰が行うのかを一覧表に整理されています。ただ、この一覧表はかなり細かく全体像が捉えにくいかもしれませんが、「誰が何を行うのか」というようにつながっていく大事なものであると思っています。そのうえで、中心となる取り組みになりそうで、他の地域にも強く影響を与えていくような取り組みを「戦略的まちづくりプログラム」と呼んでおり、そこについてはかなり重点的に力を入れて取り組んでいこうということです。

例えば、『歴史を紡ぐ』というような二天門通りや浅草寺辺りの歴史の話、あるいは浅草全体に『賑わい』の影響が大きく出る六区ブロードウェイの話、そして『新たな』駅や水辺との拠点が出てくるのではないかと思います。そういったものをつなげて歩きやすくなるようなプログラムを同時に行っていこうというのが、後半の戦略的まちづくりプログラムの中で書かれています。

イメージ図に関するご意見でもいいですし、これから多くの方に見ていただくというフェーズに入っていくので、分かりやすく・見やすく・思っていることが伝わりやすい、という観点やまとめ方についてご意見いただければと思います。

まずは各部会から何か補足したいことがあれば、先生方からコメントをいただき、それから皆様にご意見をいただこうと思います。

○委員 まちづくり部会からコメントです。資料1でまちづくり部会のご意見をまとめてもらっていますが、「大切にしたい視点」というのがずっと整理されてきて、回遊性の話や賑わいの話、住むまち・働くまちという点が大事だと、その3つの視点を部会でも特に議論し、大事だということが前回の部会でも確認されたので、このことをもう少し強調していただけると良いと思います。浅草を捉える大事な視点というのは、例えば浅草の中心部を見ても個性があるエリアが繋がって1つの浅草になっているということだと思いますし、そういった浅草の特徴を捉えるところをもう少し表現されると良いのではないかと思います。

また、絵については、観光文化センターとファサードの一部が残るような表現を入れるべきとのことで、シンボルとなる大事な要素だと思います。本編17ページに描かれている観光文化センターや浅草駅も形がだいぶ変わってきていま

す。一方で、3章のイラストはしっかり描いていただいておりますので、このあたりも大事な要素を残したほうがいいのでは、という意見が出ておりました。

○会長 それでは、各委員からご意見をいただきたいと思います。ご質問でもご意見でも結構です。

○委員 まちの回遊性について。ブロードウェイで、まちの外から来る方から頻繁に道案内を頼まれます。私たちはそもそも暇ではなく、言い方もきついため良い思いをさせられないかもしれないので、自分たちの目で見te自分で行く方向が分かるような道案内を作りたいと思っていました。マンホールのように地面に貼り付けてしまうといったことが許されるならば一番いい方法かと思いましたが、浅草警察からNGを出されました。長年いるお巡りさんなら優しく教えてくれるかもしれないが、地元にはきつい言い方をされる方もいて、来訪者を困らせてしまうこともあります。その影響は、そこで商売をしている方たちに及んでしまいます。法規的にはだめかもしれませんが、「このまちでは特別だ」といった認可制度のようなものがないのか、と思います。

また、駅が3つ出来て乗客数も増えてきていますが、階段が長くて不便だと驚かれる方が多いです。これ以上、「人を呼び込もう」「まちへ来る人に親切にしよう」となると、あとは舟運しかありません。これは東京都の管轄のため、我々は手出しできないとよく言われますが、はっきり言って物見遊山の舟ではなく、舟運を通勤舟運のようにしてしまえば、観光から離れたところで人の流れが出来てくるのではないかと思います。それは台東区だけの問題ではなく、墨田区や江東区などでも、舟運というものをもう少しきちんと考え、それを東京都が計画的に進めていただく方法はないものか、とよく考えます。観光連盟としては、舟運について連絡を取って訴えた時期もありましたが、今は静かになってしまっています。これからもっと訴えかけていかねばならないと感じています。

○会長 前半の話に出たサインについて、事務局はどう考えているのでしょうか。現状を含め、最近だと渋谷や新宿などの駅では共通のサインを提示するようになり、特に渋谷では駅からまちへ、そのマークで流れていくようになっています。多言語で実施となると、全部記載するのはとても大変なのでQRコードの活用などもされていますが、浅草ではどう考えているのでしょうか。

○事務局 昨年度、「エドイット」という、浅草全域のトイレや喫煙所などの場所をQRコードを読み込めば見られるようなものを作成しております。それが周知されると、非常にわかりやすくなるのではないのでしょうか。具体的に何かを見

(案)

なくても、マンホールなど現地のいたるところに目印があれば、というのは色々課題もあるかと思いますが、そういったご意見を踏まえながら、今後、より良いサイン等を検討していきたいと思います。

○会長 戦略的プログラムの中で回遊性の話が入っているので、それをどうサポートするかということですね。舟運については以前から議論があることで、日本橋や築地等が変わってくると、舟運に対する期待も高まっていく可能性があると思います。

○委員 六区ブロードウェイの集客という意味では、「東宝シネマズ浅草」があれば良いと思います。私はよく映画を観に行きますが、映画館街のまちなのになぜ亀有まで行かなければいけないのかと思っています。その辺りが昔の浅草と変わってきています。ビジョンとしていろいろ書かれていますが、『いいまちをつくろう』の一言だけです。そもそも、プログラムを一つ行った場合にどれほどの費用がかかるのか、といった話が全く出てきません。そのような状態でいくら考えても無意味です。ざっくりでもいいので、1億円なのか10兆円なのかの違いぐらいは分かるはずです。それが高い場合、どこの管轄で誰が出すのかという話がなければ、毎度同じ話です。なぜそういう内容を盛り込まないのかが毎回不思議に思っています。こんな資料一つ作るにも、いったいどれほどの人手・時間・お金をかけているのか。そういった原価計算的な概念がないようでは進まないのではないのでしょうか。規制が色々ある中で、台東区だけでハンドリングできる話ばかりしても意味がありません。要望としてあげようというのは分かりますが、今一番大事なのは自分たちの権限で自分たちのお金でできることを1つ1つ潰していくことがまちづくりだと思いますし、将来の話ができるものだと思います。この後もお金の話が出てこない状況で『いいまちをつくろう』でいいのでしょうか。

○会長 取り組み一覧表のことを仰ったと思いますが、実施主体を3つほど記載してはいますが、これではだめだということを仰っているのだと思います。誰が実施するのか決まれば、そこでお金の計算をするわけですが、誰が責任もつてするのかをきちんと話し合ってください、「これはこの団体が中心になり、サポートはこのグループで」ということを、しっかりと詰めていかなければいけないと思います。

また、六区ブロードウェイの話はかなり戦略的な話になり、これからも4つのプログラムについて行っていくということなので、その際にご意見をいただこうと思います。

(案)

○委員 案内については、「台東くん」のような人形を作り、看板を持たせてたくさん出したら良いんじゃないのですか。面白いし、何だろうと思って見てもらえるのではないですか。

○委員 それで継続性はあるのでしょうか。

○委員 あるんじゃないですか。看板や方向を変えて運用するだけだから。

○会長 渋谷や新宿でサインをつくったときに、最初に決めるのは「どんな情報を入れるか」ということです。皆さん、「自分のビルを入れてほしい」と言い出すと思いますが、色々な情報を入れ込むと分かりづらくなってしまいます。ルールづくりから行わないと、分かりづらくなってしまう気がします。今回のビジョンでは、回遊性のプログラムのところでぜひ考えていただきたいと思います。渋谷の場合、全部の情報を出すのは難しいので、「i」マークのようなマークがある拠点に広域の地図があり、そこに行けば情報が得られるようになっています。そこに行くために次の情報を得るためには「i」マークの所に行けば分かる仕組みができています。そのようなことを浅草全体で考えていくのが良いかもしれません。人が大勢いるので、その地図を見るためにそこに溜まると渋滞が起きたりするので、その辺りも含めてサインのシステム・設置場所・イメージを分かりやすくすることが大事だと思います。

○委員 ビジョンが徐々に改良されてきていることはよく分かります。費用面の話については民間の用地であれば民間が検討すべきであるし、それに対して公共がお金を出す・もっといい空間ができる・いいことができるとなると、それはどういった財源から持ってきて充当するのか、ということが、希望的観測だとこの裏にあるものだと思います。今後は費用面の担保がなされないと絵に描いた餅になるということは仰る通りです。ここにいる専門家たちとしては、そこで何ができるのか紐解いていくのもひとつの役割だと感じています。

意見として2つあります。まず、浅草の場所性を考えると最終的に難しいと思っているのが、『住むまち』とは言っていますが、最終的に出てくる絵はやはり象徴的な場所の絵になっています。1枚ぐらいいは生活空間に近いような絵が入ると良いと思います。「戦略的まちづくりプログラム」の24ページに全体を説明した図がありますが、ここで一番重要なのはプログラム1だと思っています。プログラム2～4は象徴的な場所のため色々と進みやすいですが、一番残るのがここではないところになります。住む人は、こういったところに多く住んでい

(案)

るので、プログラム1のイメージパースというのは、雷門前の空間等になると、指している位置と整合していません。そのため、1枚くらいは絵を入れ替えることが出来ないかと思いました。

2つ目として、本編7ページの絵は15ページにあるようなテイストに今後変わるということでしょうか。

○事務局　そうです。

○委員　その時には最終形が示されることになるのでしょうか。

○事務局　そうです。完成形としては「20年後こうなっていたらいい」といったイメージが入ります。

○委員　「変化」をこの絵の中でどのように表現されるのか、どこが今と変わっているのか分かりやすく示してほしいです。やりすぎると色々なハレーションが起きるかもしれないが、できる範囲で、具体的に絵の中でどこが変わるのかを伝わりやすくしてほしいです。

○委員　住民目線の話については、私たちからしたら重要なことです。色々な声を聞いていますと、「浅草の価値を高める」計画を示しているのは分かりますが、住民にとってどのようなメリットがあるのか、という話になると思います。お祭りや伝統的なことは好きな人々ではありますが、そういう方向だけに特化していないか、ということ懸念される声もあります。なので、そういう絵柄を入れ込んでもらえると、そこに住んでいる我々にはどういったメリットがあるかということがアピールでき、住民の皆様にも説明しやすいかと思います。

○会長　住民視点の強化ということで、特にパースは主な拠点ばかり出てくるとイメージが違ってきてしまう、というご意見でした。

○委員　資料3の11ページで、人流をヒートマップで示した絵がありますが、この図だけ見ても何を言いたいのかよく分かりません。人通りが多いのには人通りが多い要因があるわけで、逆に言えば少ないところは目的地ではないから少ないのです。人が少ないところを歩いてもらい、多いところを減らそうとしても、現実のエリアの特性に即していないため説得力がありません。渋谷でも、広いエリアとしての戦略があり、その中で道玄坂・宮益坂・公園通りなど小さなレベルでのまちづくりを二層構造のかたちで進めています。このビジョン自体は

大きなエリア全体の内容であると思いますが、絵に描いた餅にならないようにするためには、小さなレベルでこういった主体がこういったことを取り組んでいくのか、を考えていくことが大事になると思います。そういったところを資料3の「大切にしたいポイント」の中できちんとアピールしておかないといけないのではと思います。浅草の中でもエリアの特性が違うところがいくつかあります。どこにどんなエリアがあるのか、この範囲ならまちづくり団体として民間で色々できるというものを、もう少し具体的に書けないでしょうか。

○会長 このビジョンに取り組むプレイヤーが誰なのか、そのプレイヤーを皆さんの力でサポートして変えていくというところを明確にしてほしい、というところを示されたかと思います。

○委員 冊子としての完成度は高まりつつあると感じています。今日一番の収穫は、取り組み一覧表がバックデータとして付いたのが大きいと思います。これが実際に行えるかどうかは別として、このようにリストアップされたことが非常に大きな価値です。これが精査されると、現実味が高まっていくと思いました。ビジョンの16ページ以降に、「実現に向けた取り組み」の中で縦割的に短期・中長期というところが示されていますが、個人的には中長期の話が非常に重要だと感じています。中長期の目標を皆で共有して次のアクションに繋げていくと、それがⅢ章の戦略的まちづくりプログラムでそれぞれの場所・地区において縦割りがうまく繋がり、総合的なソリューションとして打ち出していく、という構成になっているかと思います。戦略的まちづくりプログラムが進められることで、Ⅱ章に描かれている縦割りの内容が確実に実現されていくという構成だだと思いますので、その観点で見ると、短期の中で具体的な内容が書かれている印象を受けます。なので、もっと大きな方向性を示すようなキーワードが並んでいるぐらいでもいいのかなと思います。

また、「絵に描いた餅」という声もありましたが、全てが絵に描いたもので終わるのは困るものの、7～8割が実現すればそれでも素晴らしいことだと思います。一方で、短期的な取り組みだけを積み重ねていくと、結果的に成り行きでこのような状況になったのでは、に成りかねない気がしています。未来がはっきり見えて1本道しかないときには、成り行きであっても1本しかないのでまっすぐ進んでいきますが、そうではない場合、関係者全員がビジョンを共有することが非常に重要かと思います。ビジョンがあることで、障害を色々突破していけると個人的に思います。

世の中には規制やルールがありますが、たいていは陳腐化しています。未来に向けてやりたいことが出来ないのは、ルールが陳腐化しているからです。未来に

向けてこういうことをやりたい、という全会一致の地域の合意があると、陳腐化したルールや規制を新しくすることが容易になると思います。その第一歩としてのビジョンだと思います。

お金の問題については難しい話ですが、良いプランには必ずお金がついてくると信じて前に進むしかないかと思っています。

○委員 Ⅲ章の 25～28 ページにダイアグラムがありますが、これはこれで考え方が整理されていると思います。26・27 ページは河川に人を行かせたいということだと思いますが、河川には何もないので、河川空間に何を挿入したいのか、どういう新しい機能を持てきたいのかといった、「目的地だ」という表現を示されるべきかと思います。商業的なものも含めて河川空間を盛り上げていくということだと思いますので、モデル図の中に目的地としての河川をきちんと明示しておくべきかと思います。

また、Ⅱ章の絵でも河川空間の変化があまり現れていません。17 ページの絵では、舟は浮かんでいますが新しいアクティビティが増えているようには感じません。河川のイメージをもう少し膨らまして描いてほしいと思います。

○会長 いただいたご指摘を踏まえて内容を取りまとめていただきたいと思います。

ビジョンを「絵に描いた餅」にしないためには、取り組み一覧表の内容を誰が行うのかをきちんと認識していただくことが大事かと思います。全体の責任にならないよう、ビジョンそのものだけでなく、それを実際に動かすための重要なプログラムが必要だと見ていただいた方が良いでしょう。

また、戦略的プログラムについては全域に大きく影響を及ぼし時間もかかる議論になりそうですが、引き続き色々なご意見を拾い上げていこうと思います。

本日のご意見を振り返ると、絵の修正が必要だというご意見などもありましたが、今後の進め方について事務局から連絡事項があればお願いします。

○委員 ご意見いただきありがとうございます。今後の進め方についてお願いがございします。コンセプトや文言についてはだいぶ議論が熟してきており、次回の策定委員会には整えてお出しできると思います。本来なら本編に載せたいⅢ章のパスについては、具体的な絵として提示したいと思っていましたが、関係者間にて調整中のため、本日は資料として出せませんでした。次回 10 月 10 日には、精緻な形で下絵として載せたいと思っています。その後、パブリックコメントを経て年明けに策定委員会を重ねていく予定ですが、10 月 10 日の段階ではイラストの完成には至らないと思うため、下絵でお出しさせていただき、各主体

(案)

に確認いただくことが宿題という形で残ると思います。その点については、11月を目途に書面開催でご議論をいただき、その内容を反映するようにできればと考えています。

○会長 会合の開催は回数が限られるため、絵については、別途事務局から依頼があった場合には、組織として確認いただいて事務局に意見を戻していただき、最後は我々の方で見させていただきバランスよくまとめていきたいと思っています。

(4) その他

※特になし

4 閉 会

○事務局 本日はお忙しい中ご参加いただきまして、また長時間にわたり貴重な意見をいただき誠にありがとうございます。次回の策定委員会は10月10日(金)を予定しております。詳細は決まり次第ご連絡させていただきます。

以上をもちまして第8回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

11時40分 閉会